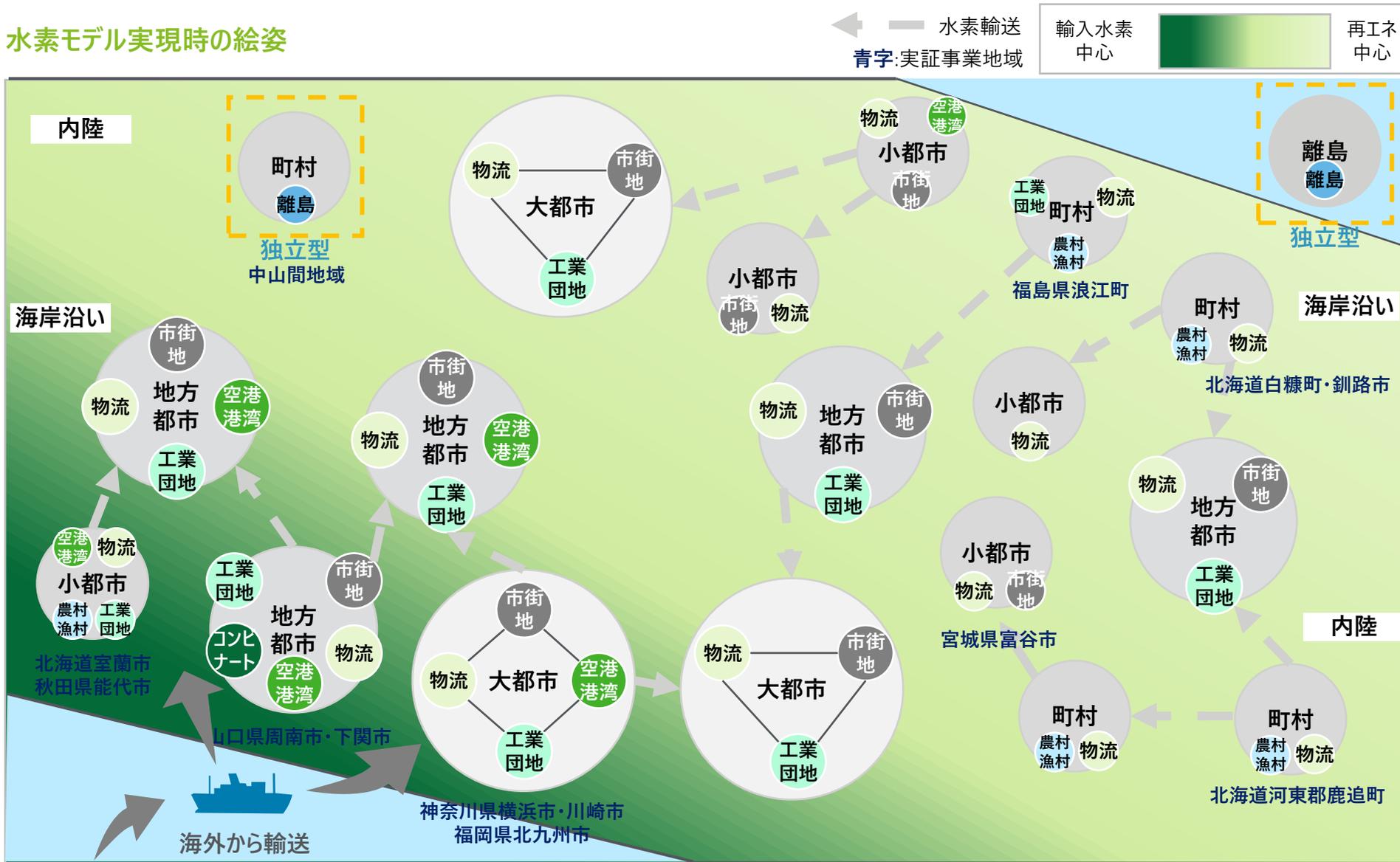


【水素モデル実現時の絵姿】

脱炭素社会では各地域で水素モデルが組み合わせて適用され、地産地消を行いつつ、電力や水素が融通されることで水素サプライチェーンが形成される

水素モデル実現時の絵姿



1 * 上記の地域間連携やモデルの組み合わせはイメージであることに留意が必要

【脱炭素社会における水素モデルの分類】

脱炭素社会における水素モデルは7つに分類され、各モデルはサブモデルに細分化される

脱炭素社会で想定される水素モデル

利用モデル名称	主な水素利用	サブモデル名称	電力の需給調整
① 市街地・街区モデル	FCバス、FCV	1-1 業務利用中心市街地モデル 1-2 家庭利用中心市街地モデル	広域連携可 (地域間でエネルギーを融通することが可能)
② 農村・漁村モデル	農業用トラクター	2-1 農村モデル 2-2 漁村モデル	
③ 物流地域モデル	FCFL・FCトラック	3-1 基幹物流モデル 3-2 配送モデル	
④ 離島モデル	定置型FC 電力需給調整	4-1 系統連系型離島モデル 4-2 マイクログリッド型離島モデル	広域連携不可 (マイクログリッド等)
⑤ 工業団地モデル	自家発電 ボイラー	5-1 都市ガスインフラ工業団地モデル 5-2 LPガスインフラ工業団地モデル	広域連携可 (地域間でエネルギーを融通することが可能)
⑥ コンビナートモデル*	石油精製、E-Fuel製造 ケミリサ、P2C、製鉄	6-1 化学産業モデル 6-2 鉄鋼産業モデル	
⑦ 港湾・空港モデル	FC航空機・FC船舶 FCFL・FCトラック	7-1 港湾モデル 7-2 空港モデル	

*: 石油化学コンビナートを想定、またこれらのモデルが組み合わされるケースあり